

北の丸公園の利用の在り方に関する検討会（第2回） 議事概要

1. 日時：令和5年7月14日（金）13:00～15:00

2. 場所：航空会館ビジネスフォーラム 7階 大ホール

3. 出席者：

（検討会委員 ※50音順・敬称略）

岸井 隆幸（一般財団法人計量計画研究所 代表理事）

篠沢 健太（工学院大学建築学部まちづくり学科 教授）

鈴木 誠（東京農業大学 名誉教授）

鳥居 敏男（一般財団法人自然公園財団 専務理事）

西村 幸夫（國學院大學観光まちづくり学部 学部長）座長

林 良博（独立行政法人国立科学博物館 顧問）

矢ヶ崎 紀子（東京女子大学 副学長、現代教養学部国際社会学科 教授）

（環境省）

堀上勝大臣官房審議官、松下雄介総務課長、柴田泰邦国民公園室長、曾宮和夫新宿御苑管理事務所長、細川真宏大臣官房地域脱炭素推進審議官グループ地域政策課長、中村邦彦皇居外苑管理事務所長、長谷川学皇居外苑管理事務所北の丸分室長、他

（ヒアリング団体）

公益財団法人日本科学技術振興財団科学技術館、独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館

4. 議事概要

（1）開会・あいさつ

○開会あいさつ（堀上大臣官房審議官）

○座長あいさつ（西村座長）

（2）団体ヒアリング

○科学技術館から資料1の説明

【岸井委員】

- ・北の丸公園の立地が科学技術の発信に最適であると言えるだろうか。建替えに当たり、科学技術に関わる他施設との連携も視野に入れて欲しい。

→〔科学技術館〕

- ・北の丸公園を中心に考えているが、色々な技術を活用して他のエリアや企業との距離を縮め、連携していきたい。

【篠沢委員】

- ・資料1の17ページに現在の科学技術館の解体後に別棟を建てるというような記載があるが、北の丸公園の品格を守る上でそのような整備は適切なのか疑問である。ただし、科学・産業技術の発信が自然に関する知識も含んだものであるなら、北の丸公園自体も変わる必要があるのかもしれないと思った。

【鈴木委員】

- ・生物多様性等の観点から、科学技術館として、北の丸公園という場所を活かした活動や、場所が生むメリットはあるのか。

→〔科学技術館〕

- ・資料1の16ページに記載しているように、IoTを活用し、現在行っている北の丸公園の自然観察会等を更に発展させていきたいと考えている。

【鳥居委員】

- ・資料1の12ページ「改修等の方針」の「サイエンスエンターテイメント」について、言葉の意味や、同ページの「滞在型施設」や「滞在、飲食、物販」との関係性を具体的に教えて欲しい。

→〔科学技術館〕

- ・イベント的な体験を楽しめる施設を作りたいとイメージしているが、改めて回答させてもらいたい。

【西村座長】

- ・建替え方法については、現在の建物の近隣に新館を建て終わったら現在の建物を壊すというイメージか。
- ・資料1の12ページに「滞在型施設」とあるが、新科学技術館は宿泊可能なのか。

→〔科学技術館〕

- ・現在の建物は解体しようと考えているが、今後環境省と検討していく予定である。
- ・新科学技術館は宿泊可能にして、幅広い科学技術の長期体験や研修ができる施設としたい。

【矢ヶ崎委員】

- ・インバウンドに対しては特別なコンテンツの提供があるのか、あるいは日本語で想定しているコンテンツを言語対応するのか。

→〔科学技術館〕

- ・基本的には言語対応だが、建替えによって、外国人が北の丸公園に行けば日本の産業技術が目指す社会・文化を見ることができるようイメージ・エリアを作っていきたい。

○東京国立近代美術館から資料2の説明

【岸井委員】

- ・耐震補強は終わっているのか。
- ・建物の中には収蔵庫があるか。収蔵や空調の面での問題はないのか。

→〔東京国立近代美術館〕

- ・耐震補強は終わっている。
- ・建物の中には収蔵庫がある。スペースが足りないという問題を抱えている。

【篠沢委員】

- ・ソフト面では、東京駅を中心に、東京ステーションギャラリーや三菱一号館美術館等の官民連携が容易に実行できそうだと感じた。
- ・収蔵空間の不足は永遠の課題だが、それを解決するために北の丸公園にできることがあるのかは疑問である。
- ・旧工芸館を北の丸公園の中の歴史的な資産として活用する上で、費用や技術等の面での課題があるのか。
- ・資料2の「東京国立近代美術館分室（旧工芸館）の活用について」に「収益の確保による自立的運営」とあるが、旧工芸館の外部に収益を生む施設・空間を作りたいと考えているのか。

→〔東京国立近代美術館〕

- ・旧工芸館を活用する上で、自立的運営のためのギャラリーやショップ、カフェ、レストラン等の収益性のある機能を持たせたいが、北の丸公園の中の施設で行って良い

かという懸念がある。

- ・ 旧工芸館の外部に収益を生む施設・空間を作りたいとは考えていない。

【鈴木委員】

- ・ 美術館と周辺の公園・庭園等のランドスケープの関係に関する研究や展示はないか。

→〔東京国立近代美術館〕

- ・ 東京国立近代美術館では行っていない。上野公園はミュージアムが近接していることでより集客しやすくなっている。大丸有や半蔵門等の皇居周りでも、文化施設が連携することでそのような効果が生み出せば良いとは思っている。

【岸井委員】

- ・ 資料2の「今後の課題」に「近隣施設との連携（国立公文書館、丸紅ギャラリー）」とあるが、具体的にどのような連携を考えているのか。自身が理事長を務めている大丸有地区のリガーレ（大丸有エリアマネジメント協会）とも、ぜひ連携をお願いしたい。

→〔東京国立近代美術館〕

- ・ 資料2の「特徴的な取組」にある「美術館の春まつり」では、日本博の予算でサクラの時期に春にまつわる作品を展示し、美術作品からイマジネーションを得た映像作品を TOKYO CREATIVE SALONと連携し丸の内などで流すことを予定している。今年度は東京国立近代美術館の作品のみで進めているが、今後は、国立公文書館と丸紅ギャラリーでも春にまつわる作品を用いて参加いただきたいと考えている。作品のモデルとなった場所へも観光客の興味を促したいと考えている。リガーレともぜひ連携をお願いしたい。

【西村座長】

- ・ 旧工芸館が北の丸公園の中にある意味付けを考えると旧工芸館よりも旧近衛師団司令部庁舎という呼び方の方が良いと思うが、そのようには呼ばれていない。旧近衛師団司令部庁舎であった歴史はどのように位置付けているのか。

→〔東京国立近代美術館〕

- ・ 美術館の施設としては旧工芸館であったため、そのように呼んでいる。重要文化財としての価値付けは旧近衛師団の建物であった歴史からきているものであり、公開活用する際にはそのような歴史もこれまで通り説明していく。

(3) 文化庁からの報告等

○文化庁から資料3-1、資料3-2の説明

【篠沢委員】

- ・ 北の丸公園の近くには大丸有があり、企画力・実行力のある人材がいる。それらの人々を迎え入れ、連携するために何をすべきかを考える必要がある。
- ・ 資料3-1の2ページに「当初のグランドデザインに沿った機能に留まっている状況」とあり、それが問題であるかのように読み取れる。また、資料全体として、比較的自由に意見を募っているように思えるが、調査先や質問方法について教えて欲しい。

→〔文化庁〕

- ・ 「留まっている状況」という記載は言葉選びがあまり適切ではなかった。調査先の具体的な名称は伏せるが、公式な意見ではなく、科学博物館の建替えを受けて北の丸公園で何ができるかをデベロッパー等から広く自由に聞いた意見だと捉えてもらいたい。

【鈴木委員】

- ・ 資料3-1の8ページに「アートの力を発揮することが重要」とあるが、アートの観点から、自然環境を守りつつIoTを活用する科学博物館、北の丸公園、東京国立近代美術館が連携され、都心の芸術祭のようなものができると思い。

【林委員】

- ・ 連携という言葉がよく出てくるが、具体的には何をするのか。国立科学博物館と上野動物園では同じ時間に予約して当日の天気によってどちらでも行ける仕組みを作っていたが、そのような具体的な連携方法を聞きたい。
- ・ 集客力を上げるためには企画展が必要で、そのためには人材を確保する必要がある。具体的には何人増やそうと考えているのか。
- ・ 来園者が増えると公園内の治安や清潔さが保たれなくなる可能性があり、警備や監視を強化する必要があるが、どのような対処方法を考えているのか。

→〔文化庁〕

- ・ 連携については、北の丸公園内にQRコードを配置して回遊を促す、回遊・観察した北の丸公園の自然を科学博物館でテーマとして扱う、各館同士で共通の展示を行う等の色々な取組みが考えられる。

→〔科学博物館〕

- ・ 人材確保について、現在は2、3人しかおらず、2桁は人材が欲しいと考えているが、新規採用も難しい状況にある。

→〔東京国立近代美術館〕

- ・ 人材確保について、現在は研究職が20人足らずしかない。諸外国では3桁に上る研究

職・学芸員を抱えている館もある。日本とは文化に関する考え方が全く異なる。

→〔事務局〕

- ・ 環境省には本検討会で北の丸公園の利用の在り方の大きな方向性を出していく立場と管理者の立場があり、管理者の立場としては国民公園協会に委託して巡視や違反の取締りを行っているが、今後出てくる様々な事案に対しても対応を考えていきたい。

(4) 環境省からの報告等

○環境省から資料4-1、資料4-2、資料4-3、資料5、資料6の説明

【岸井委員】

- ・ 首都高速道路と代官町通りの間の国立公文書館・東京国立近代美術館があるエリアを、北の丸公園の一部のエリアとして扱うか、それとも北の丸公園と皇居東御苑を結んでいる東京駅や有楽町等の周辺地域と繋がる可能性を持つエリアであるか、これらの捉え方は少し異なると思う。そのため、北の丸公園を分断する形で首都高速道路を整備した当時の北の丸公園の範囲の認識が知りたかった。
- ・ 北の丸公園を皇居の森の一部として捉える際には、水についても意識した方が良い。

→〔西村座長〕

- ・ 国立公文書館・東京国立近代美術館があるエリアは、皇居東御苑と吹上御苑を通り抜けて代官町通り側まで来る人々の受け皿のような空間でもある。北の丸公園においてゾーニングを考えると、各エリアの役割をもう少し広げられるのではないかという意見である。

【篠沢委員】

- ・ 現在、北の丸公園への様々な要請があったとしても、閣議了解はそれより尊重されるべきものである。しかし、当時とは異なる現代のあるべき森林公園の姿を検討することは出来ると思う。
- ・ 北の丸公園に入ってくる動線は主に3つあると考えられる。1つは田安門を入口として武道館を利用し公園内部には入ってこない動線、2つは竹橋駅から来て東京国立近代美術館や科学博物館を利用する動線である。旧近衛師団司令部庁舎を入口として吹上御苑方面の森と公園内部を結ぶ動線も考えることができれば良い。この中で、清水門を利用する動線は浮いているように感じられる。
- ・ 北の丸公園を日比谷公園まで含んだ広い視野で捉え、インバウンドの観光客に対しては、皇居も含んだセントラルパークの一部であるという紹介ができれば良いと思う。

【鈴木委員】

- ・現在の北の丸公園の入口は、田安門と清水門、南側の駐車場付近にあるが、入口らしくなく、品格ある公園の顔になっているとも言い難い。周辺施設との連携、公園内の周遊等の観点からも、北の丸公園のメインの入口について検討する必要がある。
- ・田安門と清水門を改変することはできないため、南側の入口の考え方によって、旧工芸館や公文書館、東京国立近代美術館、科学博物館の、北の丸公園と外部を結ぶための施設としての在り方が変わってくると思う。例えば、旧工芸館は旧近衛師団敷地の入口だったから、北の丸公園のメインの入口に位置付けられる可能性もある。
- ・科学博物館の再整備のイメージ図ではアクセスについても考えられているように感じたため、その面でも北の丸公園南側の入口の在り方を検討しておかなくてはならないと思う。

→〔西村座長〕

- ・入口整備等によって動線を強化し、動線上に施設を上手く配置し、それぞれの施設を連携させ、丸の内等の周辺地域と繋げるというような、全体的な考え方が必要であるという意見である。

→〔事務局〕

- ・入口は大きくは北側の田安門と南側があり、これを大きく変えることは技術的にも難しいと思う。清水門からの入園者が少ない状況については、検討の余地がある。

【鳥居委員】

- ・資料4-2の22ページの「図：北の丸公園周辺の交通情報」は、大丸有や皇居外苑との連携を目指していくことを踏まえると、もっと南側の広い範囲を含んだ図にして欲しい。
- ・本検討会で検討する北の丸公園の利用の在り方は、明確なランドデザインのようなものなのか、それとももう少し漠然としたものなのか。

→〔事務局〕

- ・本検討会では大きな方向性を検討して欲しい。これまでの議論を事務局として解釈すると、森林公園としての品格は守りつつ、周辺との連携や賑わいを創出していくという方向性になるかと考えている。

【西村座長】

- ・東京都心に50年程でできた若い森であるというストーリーは、外国人に喜ばれるのではないかと思う。そのような大きな1つのストーリーを作り、その中で動線も設定してはどうか。

【矢ヶ崎委員】

- ・ 北の丸公園の利用者は、武道館や科学技術館、東京国立近代美術館を目指して来る人が多く、インバウンドの観光客には北の丸公園とは何かを説明しにくい。森林公園として、公園内の施設が環境に配慮した統一したコンセプトを持つような案も考えられる。

(5) 今後のスケジュール等

- 事務局から説明

(6) 閉会

- 閉会あいさつ（柴田国民公園室長）